



ハイナイト祈禱課題 2025年4月号

1. 人質解放とテロの脅威を覚えて

1月19日から始まったハマスとの停戦協定の第一段階で、33人の人質がガザから解放されました。見返りとして、イスラエルは約2千人のパレスチナ人囚人を釈放。中には多くの凶悪なテロリストも含まれており、イスラエル国内ではテロの脅威が高まっています。今月は、エルサレムのヘブライ大学在学中の松田有先生からのレポートをお届けします。

——レポート——

イスラエル国内では、人質解放をめぐって多くのパレスチナ人テロリストが釈放されたことにより、緊張が高まっています。釈放されたテロリストの中には、その後、再びテロ活動に関与した事例もあり、社会全体に油断できない空気が広がっています。過去に、人質解放と引き換えに釈放されたテロリストの中には、ヤヒヤ・シンワルもいました。10月7日のテロの首謀者です。

実際、イスラエルで暮らしていると、テロの脅威は決して遠い話ではありません。例えば、2月20日には、テルアビブ近郊で、バスの連続爆破事件が発生しました。もともと朝の忙しい時間を狙ったものでしたが、爆発の誤作動で、前日の夜に爆発したため、奇跡的に死傷者はいませんでした。しかし成功していれば、多くの犠牲者が出たことでしょう。

以来、多くの市民は公共交通機関の利用に慎重になっています。バス運転手が、大きな荷物を持った乗客に声を掛ける場面も見られます。ブリッジス・フォー・ピースのボランティアたちも、安全



2月20日、テルアビブ近郊で発生したバスの連続爆破事件。
(爆弾の誤作動で夜に爆破し、死傷者なし)
写真: מנאח מרקור, שימוש הוגון Fair Use

を考慮し、一定期間バスの利用を控えました。

また、ヘブライ大学のようなアラブ人地区に近い場所に位置する教育機関では、日常的に不安を感じる学生もいます。

バス停や商店など、人が集まる場所では特に注意が必要です。状況によっては常に緊張状態を強いられることもあり、特に幼い子どもや高齢者は、ミサイル警報やテロの脅威に日常的にさらされ、精神的なストレスを抱えることも少なくありません。

テロリストの最大の目的は、市民に恐れをもたらし、日常の生活をできなくさせることです。テロリストに対して最大の対抗策は、「テロ(terror)」すなわち「恐れ(terror)」に屈することなく、普段どおりの生活を送ること。テロリストの思惑に陥らないことだと言います。普段どおりの生活を送り、明るい未来を信じて歩もうとするイスラエル人たちも多くいます。特にエルサレムでは、そのような前向きな姿勢を持つ人々の姿に日々触れることができます。

「あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。また、あなたを責め立てるどんな舌も、さばきのときに、あなたがそれを不義に定める。これが、主のしもべたちの受け継ぐ分、わたしから受ける彼らの義である。——主のことば。」(イザヤ54:17)

- ①テロを起こそうとする者たちのたくらみが、とどめられ、イスラエルの人々の命が守られるように。
- ②命懸けで、テロ対策に従事する人々に主の知恵と、特別な守りがあるように。
- ③イスラエルの人々が恐れや不安から守られ、主の平安の中で、日常生活を継続できるように。

2. 日本の教員不足を覚えて

4月、進学や進級の季節を迎える中、教員不足が深刻です。文科省が2022年に行った教員不足の実態調査によると、公立小中学校のほぼ20校に1校で教員が不足。特に小学校では、約800校で不足しています。そのため、学級担任を正規

教員だけでは賄えず、臨時教員が務める比率も上がってきました。

実際には、近年の教員採用者数は増えており、23年度は2000年度より4.6倍に増えました。それでも教員が不足している理由は、「団塊世代の

教員の大量退職」で教員が減る一方で、「特別支援教育」を必要とする子どもたちが増えていることなども挙げられています。

加えて、精神疾患などの病気で休職する教員が増えています。文科省の調査によると、23年度は過去最多の7千人以上が休職。このうち約2割が翌年4月までに退職しました。その背景には、

長時間勤務、業務量の増加、生徒や保護者対応の難しさなどもあります。さらに、これらのことを、ことさらにメディアが報道していることも、教員不足に拍車をかけています。

教員不足は、教育の質の低下にもつながります。日本の未来を担う子どもたちが充実した教育を受けられるよう、教員のために祈りましょう。

若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。(箴言22:6)

- ① 教員不足の悪循環が緩和され、教員が心身ともに健康に、志を持って仕事を続けられるように。
- ② 子どもたちの良き学びと成長に重点を置いた政策がなされるように。
- ③ 聖書の価値観に立つ教員が日本に多く起こされていくように。

3. ハイナイトスペシャルを覚えて

ハイナイトスペシャルがいよいよ、今年6月に関東、中部、関西の3地域で行われます。テーマは、「SHINE—神の心とひとつになる—」。主題聖句は、今年のB.F.P. Japanのビジョンのみことば、ローマ書12:2です。いつもハイナイトで皆さんと共に祈っているように、イスラエルと日本をとりなし祈ります。そして、今回の集会では、いつものとりなしの祈りに加え、賛美の中でも神さまの心とひとつになることを求めています。

このハイナイトスペシャルのビジョンは、局長の田畑が2022年にエルサレムで行われた祈り会で体験した祈りから始まっています。その祈り会は、世界中から牧師やクリスチャン団体のリーダーたちが集まり、ユダヤ人と共にエルサレムと世界の平和のために祈るものでした。

とりなし祈るために集まった人々を前に、祈禱

リーダーがこう呼び掛けました。「主に祈る前に、まず私たち自身が主の前に徹底的にへりくだり、主の御顔を慕い求めて悪の道から立ち返る。そこから始まるのです」と。その時、会場にいたクリスチャンもユダヤ人も皆がひざまずき、へりくだって悔い改めて祈りました。そこには不思議な一致がありました。

情報があふれ、何が真実か分からない時代です。議論が繰り広げられ、人々の愛が冷め、分裂が起こっています。闇が覆う世の中で、私たちが主の前にへりくだり、神さまの心とひとつになって、とりなす祈りは、どんなに力強く闇を照らす光となるでしょう。そのような光が、日本全体を覆うものとなるように願っています。ハイナイトスペシャルに向けて、ご一緒に祈りをもって、備えてまいりましょう。

この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。(ローマ12:2)

- ① ハイナイトスペシャルが、全国の祈り手の皆様と心ひとつに祈る集会となるように。
- ② 神の心でイスラエルを愛し、神の心とひとつになってとりなす人々が、日本にますます起こされていくように。
- ③ ハイナイトスペシャルを通して、祈りのともしびが広がっていき、日本の祝福となるように。

「ハイナイトソング」

視聴・譜面のダウンロード



<https://www.bfpj.org/music/>

「ハイメール通信」

祈りの第一声として
祈禱課題をお届けします(不定期)



<https://www.bfpj.org/pray/chaimail/form/>



特定非営利活動法人 **B.F.P. Japan**(ブリッジス・フォー・ピース)

TEL: 03-5969-9656 FAX: 03-5969-9657 URL: www.bfpj.org

ハイナイトに関するお問い合わせ: chainight@bfpj.org